

ちば 千葉ちかこ

2012年 夏号
通信
第57号

発行 千葉親子励ます会 会津坂下町大字大沖字上野1170-1
電話83-2964 E-mail samasama.uwano@sea.plala.or.jp

平成24年第2回定例会は、6月7から15日までの9日間の日程で開催されました。主な案件は、長寿祝金条例の一部を改正する条例、平成24年度一般会計の補正予算の歳入歳出それぞれ1,423,527千円を追加し、予算の総額を9,622,527千円とすることなどです。

主なものとして、「県南・会津・南会津地域給付金事業」災害救助費の1,250,400千円などです。会津坂下町は18歳未満3,086人、妊婦さん206人、他の方が14,300人分の交付金となっています。

(18歳未満と妊婦さん=20万円、そのほかの方が4万円)

川で何がおきているのか



6月10日 NHK 教育テレビで福島県中通り地方を流れる阿武隈川と、阿賀野川の上流にあたる会津地方の河川の放射能汚染状況の実態を放送していました。

会津地方は事故直後、原発周辺の町村住民が避難するほど汚染が低いはずだったが、雪解けを挟んで放射能物質の量(汚染)が大きく跳ね上がりました。会津坂下町においても例外でなく、鶴沼橋(旧宮川)の川底の土から、昨年12月の調査で、1キロあたり8,790ベクレル(国の基準値は8,000ベクレル)で除染対象の箇所があり、同じ場所を今年の4月下旬の調査では、1キロあたり17,000ベクレルと雪解けを挟んで大きく跳ね上がっていた。

阿賀野川の支流の放射性物質の量が、会津の川で、ある異変が起きているということであった。1年後の今、事故直後に汚染が見られなかった場所で新たなホットスポットが見つかり、汚染地図の見直しが必要になっている。その原因のひとつに考えられるのが、会津の野山に降った放射能が雨や雪で川に集まり、川底に溜まりができ、最初からのホットスポットでなくその後の自然環境の変化から、放射能の濃淡が出来ているという。早く濃淡を見つけ汚染を取り除くことで、汚染の拡散を防ぐことにもなる。いつ、どこに高濃度の放射能溜まり出来るか分からない状態になっていることをしっかり学び、きめ細やかな継続した汚染調査と指導が求められる。我が家の敷地内の土壌検査したら、セシウム134/137あわせて2,360ベクレルもありました。

昨年作らなかつた家庭菜園は今年、表土5センチを剥いで、キュウリ、トマトなど夏野菜をつくりました。家庭菜園の再会ですが作った野菜は、極めて美味しく夏の香りを楽しんでいる

「川で何がおきているのか」 DVDがありますので、見たい方は、ご連絡下さい。

◆◆◆ 一般質問 ◆◆◆

新設された放射能対策室 専門性をもった機関に位置づけよ!!

質問 今年度、総務部に放射能対策室が新設された。設置目的と役割、窓口が生活部戸籍環境班から、総務部情報防災班に変わったことの経過は

答弁 日下総務部長
生活環境における放射線量という観点から生活部戸籍環境班が携わっていたが総合調整機能を持たせる意味で総務部に設置しました。

質問 町民の健康を守るための、除染、食品の安全管理、健康、町民の放射能に対する相談など、専門性をもった取り組みの出来る機関に位置づける考えは

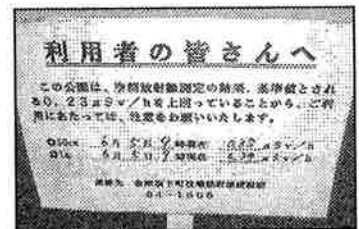
答弁 日下総務部長
県主催の研修講習会に参加し専門知識の習得に努め、県のアドバイザー派遣事業を活用しながら町民の健康管理に寄与したい。

質問 町民は、食品等放射性物質検査所で自家野菜・水・土壌などの検査をしている。現在は、計測中心となっているが、対策室と連携をとり、計測された数字の意味や考え方など話の出来る環境整備が求められている。検査状況と今後の考え方や運用はについて。

答弁 日下総務部長
質問には対策室と連絡を取りながら対応しています。高度な質問に対しては県担当部署との連携を図り対応していきたい考えです。

質問 町内の各所にホットスポットが確認され、年間1ミリシーベルトの確保が出来ない状況にある。全町的なモニタリングの継続と汚染状況の公表と除染計画はあるか

東公園に掲示されている注意の看板

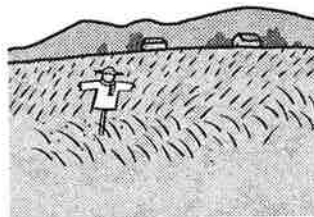


答弁 日下総務部長
全町的にモニタリングを行い、町政だよりや町のホームページで公表している。除染は、区域の設定、汚染土壌の仮置き場の選定、町民説明会を開催しながら8月を目途に国の承認を得たい考えです。



カントリーやトン袋は抽出検査だって？ それで全袋検査って言えるのかな～

質問 県は、24年産米の全袋検査の実施を示した。本来は、県が国と東電に体制を整えさせなくてはならないことなのに、県は、市町村に、市町村は農協や米穀業者に担ってもらうのが現状だ。検査場所や運搬や人員の確保、検査体制の推移を示せ



答弁 竹内町長
当町の検査機は4台、数量は推定約12,700トン、約42万袋で検査機や人件費などが足りない。検査台数の確保など県に要望し万全な体制を図っていきたい。会津管内では8月下旬に早場米が出荷になる。JA、米穀業者などと調整を図り万全の体制を図る考えです。

(その後、町対応により検査機は2台増え6台となりました。)

請願

第4号 「福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書の提出について」採択

紹介議員 千葉親子 五十嵐一夫

第5号 「福島県内全ての原発の廃炉を求める意見書の提出について」採択

紹介議員 五十嵐一夫 千葉親子

公共交通（通学バス）の試乗調査

文教厚生常任委員会(千葉親子委員長)は議員8名と事務局で、5月29日(火)午前7時より通学(路線)バス乗降実態調査を行いました。中学校の統合により、遠距離通学生徒が新規バス路線により通学することになったため、新規路線バス通学の実態と運行状況、バス停留所の設置状況、高齢者など交通弱者といわれる方々の利用状況を調査目的としました。



勝方線 = バス停のところに水路あり危険。新町バス停より終点営業所の方が学校に近い。

五ノ井線 = 樋渡バス停が集落から離れていて人目に付きにくく危険でないか。樋渡集落にバスが入ると言うことであつたが入っていない、説明会と違う。大江南側の道路が狭い、冬期間が心配。**海老沢線** = 福原バス停が狭いスペースで

南幹線の延長道路で交通量多く危険箇所である、冬期間の積雪時は危険で福原集落入り口への移動は出来ないか。**御池田線** = 集会所前のバス停が多く比較的問題のない路線と感じた。立川集落への往路と復路が異なる。**運転手さんの懇談** = 小学生の乗車マナーが悪い(乗車中にけがをされたら運転手、会社の責任になる)、下校時バス営業所構内に100人近い生徒がバス待ちをするため、バス発車時刻まで構内が遊び場化している。大型バスの発着もあり大変危険。バス時間に合わせ下校できないか。全般的にバス通行道路が狭い。冬期間の除雪は徹底して欲しい。中新田経由は回送しているが循環式の方が良いのではないか。今後幼稚園児を乗車させる場合は幼稚園教諭など添乗させて欲しい。



その他、年次計画でバス待合所の設置を、行政区で設置する場合の補助制度はあるか、路線や発着時刻の調整、路線バスなので一般の方の利用促進を、通学距離を区切らず冬期は全ての児童生徒をバス通に、スクールバスと路線バスについての比較検討の必要、多くの意見や要望があり今後委員会として平成25年度へ向け町(執行部)に対し改善事項の提案をしていきたいと考えています。

坂下町に瓦礫が運ばれている？



町民の方から被災地の瓦礫が運ばれているのではないかと心配され相談がありました。調べてみると、坂下町の隣接 K 市に木材をチップにする会社がありそこに気仙沼から(株)N 会社が委託を受けて1日200トンをバイオマス発電所の燃料チップとしてリサイクルをしているとのこと。毎日坂下町の某建設会社跡地に何台もの大型トラックが並び運行している、このような情勢に不安を覚えるのは当然です。K市業者の震災瓦礫受け入れについては資源物質で再商品化され市内に留め置かない場合に限定し、定期的な放射能検査(1キログラム100ベクレル以下)と塩抜き処理が行われたものとしていますが、どこで誰がどのような検査をし、その結果がどうであるのかの検証は、隣接町として質しておく必要があることです。瓦礫の広域処理が問題視されています。汚染の拡大につながりかねません。チェック機能を働かせて行かなくてはなりませんね。瓦礫には放射能だけでなく、アスベスト、ダイオキシンなど化学物質がたくさん含まれているのです。

◆◆◆ 行政調査報告 ◆◆◆

発達に応じた保育・教育の一体を学ぶ



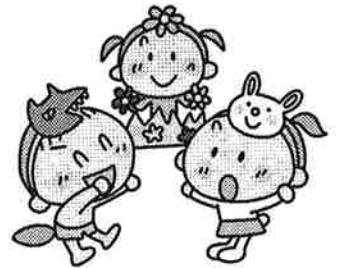
文教厚生常任委員会委員長は、7月17日～19日までの日程で保育所・幼稚園の一体経営をしている新宿区立四谷こども園と参議院会館で、内閣府の少子化担当の厚生労働省雇用均等・児童家庭局とヒアリング(聞き取りと質問)をしてきました。

四谷こども園では、園長先生から「子どもを真ん中に保護者と地域の人々と保育者が手を携え、子どもの幸せを実現する」などの3つの理念のもと0歳

児から就学前の子どもの保育・教育を一貫としています。園の中に、地域の子育て中の親子が集える部屋があり子育て家庭の支援に力を入れていました。認定こども園の運営には大変な努力をされたとのことですが、現場主義を基本に徹底して保護者の声、保育士・幼稚園教諭の声を聞き子どもを中心に改革を重ねてきたとのこと。

都会も地方も子育ての理念は同じく、人間尊重の精神に基づくものと思いました。会津坂下町は、平成25年度より0～2歳の保育所1園と、3～5歳の幼稚園2園に年齢区分けがされることになっていますが、長期的な保育教育を念頭に置いたとき、果たしてこの年齢区分けがよいのか私は疑問が深まりました。国へのヒアリングでは、政府は6月の国会で、総合こども園から認定こども園へ方向を示しました。その内容と今後の予算の在り方などを中心に聞き取りをしました。

その後、今回の行政調査で国会関係の窓口になっていただいた、社民党の福島みずほ事務所の計らいで、開会中であつた「参議院社会保障と税の一体改革特別委員会」質疑を傍聴することが出来ました。学ぶところ多い研修でした。



さよなら原発 10万人集会に17万人が参加

7月16日、全国から世界から代々木公園に17万の人々が集まり「原発いらない」の声を上げた。

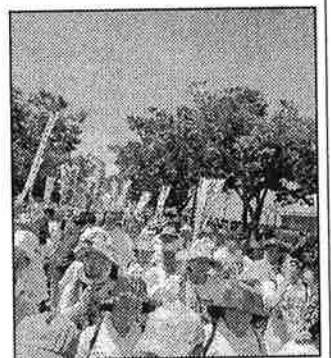
呼びかけ人の大江健三郎さんは、福島原発大事故の、今なお続く過酷な災害の中で大飯原発を再稼働させ、再稼働を継続していこうとしている政府に私たちは、侮辱されている、そのもくろみは打ち倒さなくてはならないと訴えた。澤地久枝さんは、「一生懸命運動をしているのは未来のためだ」「核を捨てて生きる選択を今こそ」と呼びかけた。

会津からも大型バスで何台も代々木に向かい


デモ行進をした。

最近は特に、放射能が安定してきたかのような報道が目立っています。3.11以降原発の状況や避難者の苦しみは何も変わらず、綱渡り状態であることを私達は忘れてならないと思います。

原発を止め自然再生エネルギーで地域経済の再生を！！



ちかこのぼちぼち日記

- 4月27日 文教厚生常任委員会懇談会
会農同窓会総会
 - 28日 メーデー
 - 5月11日 東京都小金井市、国分寺、八王子の放射能市民測定所を視察懇談
 - 19日 若宮小学校運動会
(統合最後の運動会でした)
 - 26日 会津坂下町ボランティア連絡協議会総会
- 千葉親子ボラ連
会長に再任
- 
- 27日 女性政治スクール
(講師・振津かつみ先生、内部被曝について)
 - 6月 7日～15日 第2回定例会
 - 16日 農村医学会総会(厚生連)
 - 20日 ピオラの会笹巻きづくり講習会
 - 21～23日 議会運営委員会、総務常任委員会合同研修(東京)

- 7月 1日 津波被災地と川内村訪問、楢葉町避難仮設住宅で交流会(いわき)

楢葉町のいわき
避難所で交流会



- 9日 臨時議会
- 16日 脱原発10万人集会(代々木公園)
- 17～19日 文教厚生常任委員会と産業建設常任委員会合同研修(東京・千葉)
- 22日 第3回福島未来を考える会津の会、講演 池内了氏(喜多方)
- 25日 大熊町避難所で笹巻きづくりの講習会(河東町)

避難所集会所で
試食会をしました



- 27日 臨時議会・両沼地方議員大会
寿楽荘夏祭り
- 8月2日～3日 第5回地方議会議員研修(大阪)

エッセー 花と心

故 横沢丈夫

友がみな われよりえらく みゆる日よ
花を買い来て 妻としたしむ
啄木

花は、孤独の心をいやしてくれる。

「花には精神安定作用がある」と映画評論家の川本三郎氏は述べている。また同氏は、「戦争が終わって平和な時代が始まった。その生きる喜びをシンプルに伝える小道具は花である」とも述べ、花の持つけなげな想いをたたえている。

「また逢う日まで」(昭和25年)の中で、出征する恋人に、別れを告げるために驛にかけつける彼女の胸元の一輪の小さな山茶花の花が目まぶしい。

戦後の苦しかった庶民の生活を描いたどの映画も必ず「花」が用いられ、彩を添えて人々の心を慰めてくれる。

H21. 9. 25書